

平成30年8月30日
北海道地方独立行政法人評価委員会 評価結果入り

平成29年度「年度計画」業務実績報告書



平成30年6月
北海道公立大学法人札幌医科大学

目 次

1 大学の概要	1
2 総括実績	3
3 その他の主な実績	9
4 項目別実績	13
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	13
※中期目標「第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に係る実績	
1 教育に関する目標を達成するための措置	13
(1) 入学者の受入れに関する目標を達成するための措置	13
(2) 教育内容及び成果等に関する目標を達成するための措置	21
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	37
(4) 学生への支援等に関する目標を達成するための措置	41
2 研究に関する目標を達成するための措置	44
(1) 研究水準及び研究の成果に関する目標を達成するための措置	44
(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	47
3 附属病院に関する目標を達成するための措置	49
(1) 診療に関する目標を達成するための措置	49
(2) 臨床教育に関する目標を達成するための措置	52
(3) 運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	54
4 社会貢献に関する目標を達成するための措置	57
(1) 地域医療等への貢献に関する目標を達成するための措置	57
(2) 産学・地域連携に関する目標を達成するための措置	68
(3) 国際交流及び国際貢献に関する目標を達成するための措置	70

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	73
※中期目標「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標」に係る実績	
1 運営に関する目標を達成するための措置	73
2 組織及び業務等に関する目標を達成するための措置	75
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	78
※中期目標「第4 財務内容の改善に関する目標」に係る実績	
1 財務に関する基本的な目標を達成するための措置	78
2 外部研究資金その他の自己収入の確保に関する目標を達成するための措置	79
3 経費の効率的執行に関する目標を達成するための措置	81
4 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置	82
第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	83
※中期目標「第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」に係る実績	
1 評価の充実に関する目標を達成するための措置	83
2 情報公開等の推進に関する目標を達成するための措置	84
第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	86
※中期目標「第6 その他業務運営に関する重要目標」に係る実績	
1 施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するための措置	86
2 安全管理その他の業務運営に関する目標を達成するための措置	89
5 決算、収支計画及び資金計画等	92
別紙 決算、収支計画及び資金計画	

1 大学の概要

(1) 大学名

北海道公立大学法人札幌医科大学

(2) 所在地

北海道札幌市中央区南1条西17丁目

(3) 役員の状況（平成30年4月1日現在）

理事長	塚本 泰司（学長）
副理事長	高木 洋
理事	三浦 哲嗣（医学部長）
理事	大日向輝美（保健医療学部長）
理事	土橋 和文（附属病院長）
理事	近江 秀彦
監事	小寺 正史
監事	山本 剛司

(4) 学部等の構成（平成30年4月1日現在）

①学部等

医学部	医学科
保健医療学部	看護学科 理学療法学科 作業療法学科
医療人育成センター	

②大学院

医学研究科	医科学専攻 [修士課程] 地域医療人間総合医学専攻 [博士課程] 分子・器官制御医学専攻 [博士課程] 情報伝達制御医学専攻 [博士課程]
保健医療学研究科	看護学専攻 [博士課程前期・後期] 理学療法学・作業療法学専攻 [博士課程前期・後期]

③助産学専攻科

④附属病院

診療科数	28科
中央診療部門等	21部門
病床数	938床
室数	270室

⑤その他の附属施設等

附属総合情報センター
附属産学・地域連携センター
医学部附属フロンティア医学研究所
医学部教育研究機器センター
医学部動物実験施設部

(5) 学生数及び教員数（平成30年4月1日現在）

学部学生	1,029人
大学院生	235人
専攻科学生	19人
研究生	93人
訪問研究員	214人
留学生	2人
教員数	398人
職員数	1,222人

(6) 沿革

本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。

その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。

この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣等を通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。

平成19年4月には、新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップの下、最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。

平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。

平成22年には、開学60周年（創基65周年）を迎え、「記念講演会」（道民公開講座）等、様々な取組により、これまでの本学の歩みや今後の方針等について、広く情報発信を行った。

平成23年4月には、研究機能の強化を図るため、医学部附属がん研究所等の研究部門を再編し、医学部附属フロンティア医学研究所を設置した。

また、平成24年4月には、創造性に富み人間性豊かな助産師の育成を行い、北海道の母子保健の発展と充実に貢献することを目的に助産学専攻科を開設した。

平成26年4月には、医学部及び保健医療学部の入学者選抜の円滑な実施や選抜方法の改善、オープンキャンパスや模擬講義等の入学者に対する広報の充実に目的にアドミッションセンターを開設した。

また、看護実践・教育の質的向上を図る観点から、看護職員や看護学生を対象とした新たなキャリア形成支援を推進するため看護キャリア支援センターを開設した。

平成29年4月には、医療福祉相談・退院支援業務の連携強化（受診から退院までの一貫した相談支援）に向けた執行体制を整備するため、医療連携センターと医事相談センター（相談部門）を統合し、医療連携福祉センターを設置した。

また、臨床研修センターに医師キャリア形成支援及び女性医師等就労支援業務を追加し、その名称を臨床研修・医師キャリア支援センターに変更した。

（7）建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

（8）理念

最高レベルの医科大学を目指します

人間性豊かな医療人の育成に努めます

道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します

国際的・先端的な研究を進めます

（9）行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

（10）中期目標（平成25年度～平成30年度）（基本目標）

1. 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
2. 進取の精神の下、世界水準の研究を推進し、国際的な研究拠点の形成を目指す。
3. 高度先進医療の開発・提供を行い、本道の基幹病院としての役割を果たす。
4. 地域への医師派遣等を通じ、本道の地域医療提供体制の確保に向け、積極的な役割を果たす。
5. 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供、より一層の産学官連携等を進め、研究成果の社会還元に努める。
6. 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

2 総括実績

(1) 全体的状況

本学は、公立大学法人として発足後、平成29年度で11年目を迎え、平成29年度は、第2期中期計画の5年目として、引き続き中期計画の達成に向けた積極的な取組を進めた。また、中期目標期間の終了年度の前年度となることから、それまでの期間における中期目標の達成及び業務等の改善の状況について調査・分析を行い、次期中期計画策定に向けた準備を進めるとともに、中期計画期間の最終年度となる平成30年度に確実に中期目標を達成できるよう、現時点における進捗状況を把握し、平成30年度計画に反映した。

教育の分野においては、顕在化している医師不足に対し、北海道が設置した医科大学として道内で医学・医療に従事する医師を養成するため、平成25年度及び平成27年度に改正した医学部の一般入試制度について、入試結果の分析及び課題整理を進めるとともに、平成32年度から導入となる「大学入学共通テスト」に対応するための事前準備を行った。

アドミッションセンターにおいては、北海道の医療に貢献する意志のある優秀な学生を確保するため、昨年度に引き続き、進路相談会、高校訪問、出前講義など積極的な入試広報活動を実施した。その結果、平成30年度入試においては、一般入試合格者75名中、道内出身者が56名、「北海道医療枠」の合格者は60名と高い水準を維持し、本学での取組の成果と考えられる。

国家資格試験については、医師国家試験の合格率において目標値の94%には達しなかったものの、全ての職種において合格率が全国平均を上回り、特に看護師国家試験は15年連続合格率100%を達成し、看護系大学で全国1位の連続記録を更新している。

研究の分野においては、引き続きトランスレーショナルリサーチの推進に取り組み、脳梗塞の医師主導治験の継続実施に加え、新たに脊髄損傷（慢性期）、脳卒中（慢性期）、脳損傷（慢性期：脳卒中以外）及び認知症を対象とした治験も開始している。ニプロ（株）と共同で研究成果の実用化に向けた取組を進めている脊髄損傷（亜急性期）については、平成29年2月に被験者の最終観察を終了していたが、10月にはデータ解析を終了し、現在、薬事承認の申請の準備を進めている。

また、研究支援体制の強化・充実を図るため、学務課、病院課及び産学・地域連携センターが所管する研究支援に関する事務の一元化に向けた検討

を行い、新たな体制を構築した。

附属病院においては、ハイブリッド手術室を活用した迅速かつ的確な救急医療体制の充実を図るとともに、がん看護専門看護師及び緩和ケア認定看護師による「がん看護相談室」において、患者が抱える多様な悩みや不安に対する相談業務の充実を図ったほか、地域中核病院への支援として、がん、肝疾患、エイズ等の専門医療に関する研修会や会議等を開催するなど、引き続き、専門医療の提供に取り組んだ。

また、臨床研修・医師キャリア支援センターにおいては、平成30年度から開始される新専門医制度の円滑な導入に向けて、初期臨床研修医を対象としたホームページでの情報発信やパンフレットの作成・配付など積極的な広報活動を行うとともに、女性医師等の働きやすい環境を推進するためのセミナーの開催など就労支援に関する取組を進めた。

看護キャリア支援センターにおいては、看護実践・教育の質的向上を図るため看護職員や看護学生を対象に研修・交流会を開催するなど、キャリア形成の支援に取り組んだ。

社会貢献としては、南檜山医療圏における分娩体制を維持するよう、道立江差病院に産科周産期医師・循環器科医師を派遣するなど、引き続き地域医療機関からの要請に応じ、医師派遣を行った。加えて、小樽協会病院と「北後志地域における周産期医療の確保に関する協定」を締結し、医師派遣の協力を行うこととした。

また、将来の社会貢献の担い手となる医師の養成を図るため、医学部学生キャリア形成支援委員及び臨床研修・医師キャリア支援センターにおいて、特別枠や北海道医療枠の学生を対象とした卒後のキャリア形成に係る学年毎の説明会等を開催した。

さらに、社会貢献活動の一環として、地域に勤務する看護師や助産師のキャリア形成を目的としたスキルアップセミナーの開催や出前研修を実施した。

国際交流に関しては、パウロ財団（フィンランド）との交流協定を更新したほか、協定締結大学との学術交流や学生交流を行った。また、平成30年度からの新たな取組の実施に向けて課題等を整理し、今後の方向性について検討を行った。

民間企業との連携においては、（株）ホリとの包括連携協定に基づき、平成27年度に共同開発した「北海道しそハスカップゼリー」に続き、第2弾の共同開発商品となる無香料・無着色で道産の機能性素材を用いた「北海道しそハスカップグミ」を12月から販売し、道内外に向けて本学のブランド及

び道内地元企業との共同開発の成果を広くPRするとともに、連携協定締結企業等との各種公開講座やセミナーを開催するなど広く本学の教育・研究・診療の最新情報を発信した。

業務運営においては、理事長のリーダーシップの下で、大学全体における課題協議や意見交換を行う場となるよう役員会懇談会のあり方を見直し、この懇談会において、様々な事案を協議・検討し、改善等を行った。

また、引き続きプロパー職員の採用に努め、教職協働で取り組む公立大学の運営を目指した計画的なSD活動を実施したほか、簡素で効率的な執行体制の構築に取り組んだ。

今後も第2期中期計画の達成に向けて、人的・物的ネットワークを活用し、理念に掲げる最高レベルの医科大学を目指し邁進していくものである。

(2) 計画の全体的な進捗状況

平成29年度の年度計画の進捗状況を把握するため、全106項目について自己点検評価を行った結果、S評価が2項目、A評価が101項目、B評価が3項目となった。

A評価以上となった項目は103項目（全体の97.2%）であり、全体としては計画どおり取組が実施され、一定の成果を上げることができた。

なお、各項目の進捗状況については次のとおりである。

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

第1分野は、年度計画の7割以上の項目（78項目）で構成されており、計画の重点分野として位置づけられている。

評価結果については、S評価が1項目、A評価が74項目、B評価が3項目となっており、概ね計画どおりに取組が実施された。

しかし、「医学教育分野別評価の受審に向けた取組」（年度計画No.16）については、年度内に組織体制を整備し、課題等を整理する計画であったが、組織体制の整備が遅れているためB評価となったものであり、平成30年度、早期に取り組むこととしている。

また、「新たな修学支援策の創設に向けた取組」（年度計画No.31）については、課題等の整理や検討が不十分であったことからB評価となったものであり、引き続き検討を行い、方向性を示すこととした。

「海外の大学等と交流拡大に向けた取組」（年度計画No.77）について

は、新たな海外大学との交流の実施に至らなかったためB評価としたが、国際交流委員会において、今後の方向性について検討・協議を行い、次年度に取組を繋げることとした。

実施した主な内容は次のとおりである。

○卒業生の道内定着に繋げるための医学部入試形態改善の検証 （年度計画No.1）

本学卒業生の道内定着率を高めるため、平成25年度一般入試から取り組んできた入試形態の改善について検証した結果、平成29年度一般入試においては、合格者75名中、道内受験者の合格者は56名、北海道医療卒の合格者は62名となり、また、平成30年度一般入試においては、合格者75名中、道内受験者の合格者は56名、北海道医療卒合格者は60名となり、平成24年度入試で44%まで低下した道内出身者の比率は74.7%となっており、高い効果を確認した。

○新テストに対応するための事前準備（年度計画No.3）

平成32年度に導入される新テストに対応するため、関係説明会への参加や民間教育事業者との意見交換を行うとともに、学内の検討組織の体制整備や課題の整理など事前準備を進めた。

○アドミッションセンターの積極的な入試広報活動の取組（年度計画No.4）

本学の特色等の理解の促進を図り、北海道の医療に貢献する意思のある優秀な生徒を確保するため、進学相談会、高校訪問、一日学生体験、出前講義等を行った。

また、保健医療学部では、一般入試の倍率の向上に繋げるため、新たに広報活動の方針を策定し、各活動について目的及び対象の明確化を行うとともに、効果の検証を行うため広報イベントに参加した高校生や入学者に対してアンケートを実施した。

○保健医療学部等における入試広報活動の充実に向けた取組 （年度計画No.5、No.8）

保健医療学部の志願者増加を目的として、引き続き保健医療専門職を目指す受験生向けに3学科及び附属病院を有する本学部独自の魅力や取組をホームページにおいて紹介し、平成29年度は、新たに各職種の専門性や将来性をわかりやすく高校生に伝える学科別のコンテンツを作成・追加した。

また、保健医療学研究科においては、大学院進学を促す方策として4月から長期履修制度の改正を行うとともに、保健医療学部学生や大学院の一般受験生等を対象に説明会を開催した。

○医学部における診療参加型臨床実習の教育内容の充実に向けた取組 (年度計画No.15)

医学教育分野別評価を見据えて、カリキュラム委員会等の関連委員会で臨床実習の実施内容等について検討した上で効果的なカリキュラムを編成し、一部を平成29年度から実施した。具体的には、第4学年の臨床実習について、到達目標を明確にした実習要綱を作成して1月からスタートアッププログラムを開始し、第5学年の臨床実習について、ユニット制を取り入れ、ユニットごとに特性を生かした実習要綱を作成し平成30年4月の開始に向け準備を進めた。

○医学教育分野別評価受審に向けた取組 (年度計画No.16)

平成32年度の医学教育分野別評価の受審に向けて課題を整理しつつ、平成30年度に、医学教育分野別評価基準に基づく自己点検評価を行うための委員会の設置を検討することとした。

○保健医療学部における「保健医療セミナー」の開催 (年度計画No.18)

保健医療及び保健医療専門職に関する幅広い知識や見聞を広げるため、医療専門職に求められるコミュニケーション技術や、患者及び他の医療専門職と信頼関係を構築する方法としての接遇について専門家から学ぶ「保健医療セミナー」を開催したほか、北海道の地域医療の現状を知る機会として対象学年ごとにテーマを設定したセミナーを開催した。

○FDセミナーの企画と実施 (年度計画No.26、No.28)

FD教育セミナー3回、新任教員研修1回、FDワークショップ2回、その他学内各種委員会との共催FDを4回開催し、教員の資質と教育能力の向上に繋がるよう努めた。

また、臨床教員向けFDとして診療参加型臨床実習企画・運営委員会において診療参加型臨床実習の充実を検討し、実践能力のある医師を養成できる指導教員を育成するための公開セミナーを開催した。

〈今年度実施したFD活動・・・6回〉

○学生のニーズに基づいた学生支援充実のための取組み (年度計画No.30)

学習環境等の充実を目的として、学生委員会委員及び学生担当教員が、学生の要望等を集約し、学生とともに検討する「学生支援会議」を、平成26年度から年1回実施しており、引き続き29年度においても開催した。

同会議において、集約した学生の意見や要望に基づき、学生の生活、学習環境及び課外活動に関して学生に対する支援の充実に向けた取組を行った。

○保健管理センターの体制整備など学生の修学支援の取組 (年度計画No.32)

メンタルヘルスの問題を抱えている学生の増加に対応するため、保健管理センターに正職員の医療専門職(保健師)を新たに配置するとともに、健康相談に対応するための全学的な体制づくりに向けた課題等の整理を行った。

○脳梗塞及び脊髄損傷再生医療の充実・推進 (年度計画No.34、No.40、No.78)

脳梗塞に関しては、平成25年3月から開始した治験を継続し、医療機関及び学会等での講演やブース出展を行うなど、本治験の周知を行い、被験者の確保に努めた。脊髄損傷(亜急性期)に関しては、平成28年9月に被験者の登録を完了し、平成29年2月に被験者の最終観察を終了しており、平成29年度は、共同して取り組んでいるニプロ(株)と薬事申請の準備を進めた。

また、新たに、脊髄損傷(慢性期)を対象とした治験については11月に、脳卒中(慢性期)及び脳損傷(慢性期:脳卒中以外)を対象とした治験については9月に、認知症を対象とした治験については12月に、その実施に関してIRB(臨床研究審査委員会)の承認を得た上でPMDA((独)医薬品医療機器総合機構)に治験計画の届出を行い、順次治験を開始している。

○科学研究費補助金獲得の支援 (年度計画No.39、No.87)

科学研究費補助金の獲得を支援するため、文部科学省の科学研究費改革を踏まえた内容で研究者向けの公募要領等説明会を2回開催するとともに、若手研究者等を対象とした科学研究費申請書作成レクチャーを行った。さらに不正防止に向けた啓発と競争的資金等の獲得の支援のため、学内研究者等を対象としたコンプライアンス及び研究倫理教育研修会を2回開催した。

○拠点病院としてのがん、肝疾患、エイズ等の専門医療の充実 (年度計画No.41、No.59、No.61、No.62)

診療連携拠点病院として、がん治療の情報提供や患者・家族の心理的苦痛

への支援など、患者・家族の多様なニーズに対応できるように、専門・認定看護師によるがん看護相談を行ったほか、地域中核病院への支援として、がん、肝疾患、エイズ等の専門医療に関する研修会などの開催や講師派遣等の支援により、専門医療の充実及び地域支援に取り組んだ。

○卒後医師のキャリアパス支援（年度計画No.45）

平成30年度の新専門医制度の導入に向け、臨床研修・医師キャリア支援センターにおいて、ホームページでの情報発信や新たに作成したパンフレットを活用した広報活動を行うとともに、初期臨床研修プログラムの見直しを行った。

また、医学部学生キャリア形成委員会や臨床研修・医師キャリア支援センターにおいて、特別枠や北海道医療枠の学生を対象とした卒後医師のキャリアについて具体的なイメージの形成を図るための説明会や女性医師等が働きやすい職場環境づくりを推進するためのセミナーを実施した。

○診療支援要請への対応（年度計画No.51）

道や関係機関と連携し、地域医療機関からの診療支援要請に応えるため、地域医療支援センターにおいて審議の上、次のとおり公的医療機関等へ医師派遣を行った。

※ 要請件数：2, 233件 派遣実績：2, 146件

応諾率：96.1%

（うち公的医療機関派遣実績：1, 294件、

公的医療機関派遣割合：60.3%）

○保健医療学部看護学科・助産学専攻科との連携・協働による地域医療への貢献の取組（年度計画No.53）

地域医療を担う看護職者のキャリア形成を促すとともに、看護の実践能力等の質的向上を図るため、地方に勤務する看護職者に対する研修、看護部院内研修の公開・受入れ、研修講師の派遣などを行った。

○ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療技術の提供について（年度計画No.55）

ハイブリッド手術室の活用による救急医療の充実のため、手術部管理運営委員会において、ハイブリッド手術室の有効な利用法について協議を行い、効果的な活用と利用の拡大を図った。

○公開講座・講演などの積極的な開催と情報発信（年度計画No.66、No.67、No.96）

北海道の医療・保健の向上や道民の命を守ることを目的に、北海道新聞社との間で締結している連携協定「健やか北海道プロジェクト」による公開講座「すこやかライブ講座」を本学で3回開催し、学外では帯広市や函館市で地方開催を行った。このほか、中学生を対象とした「メディカルセミナー」を開催し、トレーニング用の医療機器等を使用した体験講座を実施した。

また、留萌信用金庫、大地みらい信用金庫、稚内信用金庫及び北洋銀行との包括連携協定により、本学学生が実習を通じて地域住民や多職種の方々とコミュニケーション能力を高めるメディカル・カフェや医療セミナー、道民医療講座を実施した。

十勝毎日新聞社との連携事業では、6月と1月に帯広市で公開講座を実施したほか、新聞紙面とWEBの動画配信により本学が取り組む最新医療や研究から健康に関する身近な話題を中心とした情報発信を行った。

また、HTBのがん制圧特集企画に協力し、緩和ケア管理室の取組が全道で放送され、本放送がモバイル端末でも視聴できることとなった。

さらに、(株)ホリとの包括連携協定事業として、道外から食育に関する著名人を招へいた食育セミナーを6月に開催した。

〈北海道新聞社すこやかライブ講座〉

年5回開催

〈その他の包括連携協定事業公開講座〉

年7回開催

〈メディカル・カフェ〉

年2回開催

○海外大学等との国際交流の取組（年度計画No.72～No.77）

パウロ財団（フィンランド）との協定を更新したほか、学生交流として中国医科大学及び韓国カトリック大学への派遣、これらの大学からの受入並びにアルバータ大学への語学研修派遣を実施した。また、研究者の学術交流として、佳木斯大学をはじめ3大学への派遣や、アルバータ大学ほか3大学からの受入を実施するなどの国際交流を行った。

交流拡大等に向けては、国際交流委員会において、平成30年度からの新たな取組の実施に向けて課題等を整理し、今後の方向性について検討を行った。

第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

第2分野（7項目）については、全ての項目がA評価であり、計画どおりに取組が実施された。

実施した主な内容は次のとおりである。

○役員等のマネジメントを補完する役員会懇談会の開催（年度計画No.80）

役員会懇談会のあり方を見直し、理事長のリーダーシップの下、個別案件に対して意見交換を行う場として定期的に開催し、法人内部での課題や早急に検討を要する事案について年度内に改善が図られるよう協議・検討を行い対応した。

○コンプライアンスの確立を図る取組（年度計画No.81）

大学運営におけるコンプライアンスを徹底するため、職員が遵守すべきルールやモラル等について取りまとめた冊子「職員のルールと不祥事に向けて」を活用し、新規採用職員研修をはじめ全職員を対象とした倫理研修を行った。

また、平成29年度に発生した情報セキュリティインシデントへの対応として各所属へのセキュリティ担当者の配置等を、保健医療学部平成29年度及び平成27年度入試合否判定ミスへの対応としてマニュアルの策定等を行い、医学部平成30年度一般入試において発生した出題ミスに対しては、外部委員の追加を検討するなど、より一層慎重かつ適切に作問を行うための体制を強化することとした。

○事務職員への継続的なSD活動の実施（年度計画No.84）

大学運営の一層の高度化を図るため、「平成29年度札幌医科大学事務局職員研修計画」を定め、公開講座の活用や大学が求める役割を改めて認識してもらうための階層別研修の実施など、実情に応じた研修プログラムとし、計画的にSD活動を実施したほか、教職協働で取り組む大学運営及びSD義務化について理解を深める大学運営教職員研修を実施した。

〈今年度実施したSD活動〉

計9回開催

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

第3分野（7項目）については、全ての項目がA評価であり、計画どおりに取組が実施された。

実施した主な内容は次のとおりである。

○財務内容の改善による運営費交付金の縮減（年度計画No.86）

診療収入の増加や経費節減に取り組み、収入総額の増加及び運営費交付金の縮減を図った。これにより、計画目標（少なくとも前年度比1%縮減）を達成した。

※ 平成28年度運営費交付金：4,807百万円

平成29年度運営費交付金：4,758百万円（前年度1%縮減）

○新たな資金確保（年度計画No.89）

より安定した財政基盤の確保のため、一般寄付金について、寄附制度のPR方法の拡充・強化、新たな受入方法の創設、関係規定の改正などを行った。

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

第4分野（4項目）については、S評価が1項目、A評価が3項目であり、計画どおりに取組が実施された。

実施した主な内容は次のとおりである。

○認証評価受審と評価結果を踏まえた取組（年度計画No.94）

9月に大学基準協会が実施する認証評価（実地調査）を受審し、本学は大学基準に適合しているとの認定を受けた。努力課題とされた事項については、3月に開催した自己点検評価委員会において、改善に向けた体制等の整備や提言に沿った見直しを行うための今後のスケジュール、方針等の協議を行った。

○民間との連携による積極的な広報活動（年度計画No.96）

（株）ホリとの包括連携協定に基づき、平成27年度に共同開発した「北海道しそハスカップゼリー」に続いて、第2弾となる「北海道しそハスカップグミ」を共同開発し、12月から販売を開始した。包装及び商品本体については本学の名称とシンボルマークを付与したデザインとし、本学のブランドの活用や知名度の向上に取り組んだ。

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

第5分野（10項目）については、全ての項目がA評価であり、計画どおりに取組が実施された。

実施した主な内容は次のとおりである。

○医学部定員増に向けた検討（年度計画No.97）

医学部入学定員については、国や道の考えを踏まえ、現行の「緊急医師確保対策」の暫定定員8名分を引き続き維持することとし、平成31年度までの間110名として文部科学省へ医学部入学定員増員計画を提出した。

○危機管理意識の向上を図る取組（年度計画No.100）

危機管理手法等の事例紹介を中心とした研修会を行い、職員のリスクマネジメントに対する意識の向上を図った。

また、災害時の体制や対応をより実効性のあるものとするため、危機管理基本方針及び危機管理基本マニュアルを見直すとともに、新たに危機対策マニュアルを作成した。

○ESCO事業による省エネの実施（年度計画No.104）

平成22年度から本格的に開始したESCO事業による省エネ率は、平成29年度において13%を達成し、目標値の11%を2ポイント上回る削減効果があった。

3 その他の主な実績

(1) 教育

① 学士課程

創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献することが中期目標にも掲げられているところであり、すべての職種の国家試験において、全国平均を上回る合格率となったが、医師国家試験においては、中期計画目標値の達成に、わずかに及ばなかった。

<医師>※新卒者のみ	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受験者(人)	98	103	104	99	117	109
合格者(人)	92	102	102	96	107	102
合格率(%)	93.9	99.0	98.1	97.0	91.5	93.6
(全国平均合格率)(%)	93.1	93.9	94.5	94.3	91.8	93.3
※中期計画目標値 (毎年度)(%)						94.0

<看護師>※新卒者のみ	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受験者(人)	49	47	48	50	49	49
合格者(人)	49	47	48	50	49	49
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	95.1	95.2	95.5	94.9	94.3	96.3
※中期計画目標値 (毎年度)(%)						94.0

<保健師>※新卒者のみ	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受験者(人)	49	47	48	12	9	11
合格者(人)	49	47	48	12	9	10
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	90.9
(全国平均合格率)(%)	97.5	88.8	99.6	92.6	94.5	85.6

<理学療法士>※新卒者のみ	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受験者(人)	18	20	19	22	18	17
合格者(人)	18	19	19	22	18	17
合格率(%)	100.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	87.8	90.2	89.1	82.0	96.3	87.7
※中期計画目標値 (毎年度)(%)						94.0

<作業療法士>※新卒者のみ	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受験者(人)	20	22	19	17	20	20
合格者(人)	20	22	19	16	20	19
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	94.1	100.0	95.0
(全国平均合格率)(%)	88.2	94.2	85.5	94.1	90.5	85.2
※中期計画目標値 (毎年度)(%)						94.0

② 大学院課程

医学・医療に関する高度な知識と技術に支えられ、国際的に通用する研究人材の養成や、地域における高度・専門職業能力を有するリーダーとなる人材を養成することを目標として、教育・研究指導體制の改善・充実に取り組んだ。

学位授与者数(人)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
医学研究科 (修士)	8	5	1	5	8	3
医学研究科 (課程博士)	45	40	40	34	52	52
医学研究科 (論文博士)	8	5	13	10	15	13
保健医療学研究科 (修士)	16	14	17	17	10	17
保健医療学研究科 (博士)	3	8	5	5	4	2

③ 助産学専攻科

母子保健の充実と発展に貢献できる人材を養成することを目標として、教育カリキュラムの効果的な展開に取り組んでおり、国家試験においても全国平均を上回る合格率となっている。

<助産師>※新卒者のみ	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
受験者(人)	19	20	20	19	18	18
合格者(人)	19	20	20	19	18	18
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	98.9	97.6	99.9	99.8	93.2	99.4

④ 道内出身者の入学状況

医学部の入試において、平成20年度及び25年度にそれぞれ「特別枠」(旧特別推薦)、「北海道医療枠」を設け、道内に勤務する医師の確保に努めている。

また、平成27年度入試からは「北海道医療枠」の定員を柔軟にするとともに、一般推薦の名称を「地域枠」に変更して、「北海道医療枠」同様の卒業後必修プログラムを導入することを決定した。

保健医療学部の入試においては、平成22年度から後期日程を廃止して推薦入試を導入し、地域医療に従事する学生の確保と育成に努めている。

<医学部>	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全入学者数(人)	110	110	110	110	110	110
道内出身入学者数(人)	67	80	88	88	91	91
一般入試(人)	16	8	4	4	4	5
北海道医療枠(人)	25	37	49	49	52	51
一般推薦(人)	20	20	20	20	20	20
特別推薦(人)	6	15	15	15	15	15
道内出身比率(%)	60.9	72.7	80.0	80.0	82.7	82.7

※ 推薦入試について、「一般推薦」にあつては平成27年度から「地域枠」に、「特別推薦」にあつては同年度から「特別枠」に名称を変更。

<保健医療学部>	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全入学者数(人)	90	90	90	90	90	90
道内出身入学者数(人)	88	88	88	87	88	89
一般入試(人)	72	73	72	71	72	72
一般推薦(人)	16	15	16	16	16	17
道内出身比率(%)	97.8	97.8	97.8	96.7	97.8	98.9

⑤ 研修医の状況

平成16年度以降、多くの研修医が大規模一般病院で初期研修後に、そのまま臨床研修を続けることが多いことから、大学病院の勤務医師数が減少した。このため、本学大学院では、平成20年度から医学研究科に臨床医学研究コースを整備し、大学院在籍のまま大学附属病院での臨床及び地域医療を経験するプログラムを設けるなど、魅力ある実質的な大学院の構築に努めた。

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
初期研修者数(人)	39	33	36	28	30	22
後期研修者数(人)	74	71	68	61	86	77

⑥ 道内への定着率

地域医療への貢献を建学の精神に掲げた教育により、卒業生の多くが道内に在住している。

<医学部>	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
初期臨床研修者数 (人)	92	101	102	99	115	107
道内在住者数(人)	74	78	90	73	80	73
道内在住比率(%)	80.4	77.2	88.2	73.7	69.6	68.2
<保健医療学部>	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
就職者数(人)	77	75	80	81	80	76
道内在住者数(人)	59	70	67	67	71	66
道内在住比率(%)	76.6	93.3	83.8	82.7	88.0	86.8
<両学部計>	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
道内在住比率(%)	78.7	84.1	86.3	77.8	77.4	76.0

※医学部は、本学を卒業した初期臨床研修者、保健医療学部は、本学卒業生で就職した者のうち、道内在住者の割合を示している。

(2) 研究

① 外部資金の獲得

研究資金等の確保のため、科学技術研究費補助金、受託研究費の受入や奨学寄附金の獲得に努めた。

・科学技術研究費補助金申請件数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
申請件数	514	467	556	520	516	483
教員数	396	382	391	386	385	392
対教員数(%)	129.8	122.3	142.2	134.7	134.0	123.2
※中期計画目標値 (毎年度)(件)						100.0

② 寄附講座・特設講座の設置・運営

寄附講座として、平成24年度からジンマー・バイオメット合同会社及びスミス・アンド・ネヒュー(株)の支援による「生体工学・運動器治療開発講座」、平成25年度から(株)アインファーマシーズ及び(株)ニトリの支援による「アイン・ニトリ緩和医療学推進講座」、ニプロ(株)の支援による「再生治療推進講座」、平成28年度から「北海道病院前・航空・災害医学講座」の4講座を設置し、研究を推進した。

また、特設講座として、平成25年度に「がん疼痛緩和医療学講座」を設置し、平成29年度は「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」を財源として、道民の医療・保健・福祉に関する社会的要請の高い研究を推進した。

(3) 社会貢献

高度先進医療の提供を行う本道の中核的医療機関として、道、関係機関との連携を深め、地域社会への貢献に取り組んだ。

① 地域医療連携部門の紹介患者数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
紹介患者数	3,063	3,950	4,546	5,158	5,187	5,816
対24年度比(%)	100.0	129.0	148.4	168.4	169.3	189.9
※中期計画目標値 (30年度)(%)						115.0

② 自治体、企業等との連携件数、共同研究実施件数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
連携協定(件※累計)	12	22	26	27	28	29
共同研究(件)	19	24	25	24	36	46
計	31	46	51	51	64	75
対24年度比(%)	100.0	148.4	164.5	164.5	206.5	241.9
※中期計画目標値 (30年度)(%)						120.0

③ 公開講座、出前講座件数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公開講座等(件)	50	54	59	64	44	78
出前講座(件)	9	4	2	3	6	4
計	59	58	61	67	50	82
第2期平均(件)	—	—	—	—	—	64
※中期計画目標値 (第2期平均)(件)						45

(4) 附属病院

ハイブリッド手術室や手術支援ロボットによる高度専門医療の提供等、安全安心な医療を提供する体制の整備を図るとともに、自立的経営を目指し、運営の改善及び効率化を進めた。なお、年間延べ患者数及び手術件数実績に関しては以下のとおりである。

① 年間延べ患者数(人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
外来	484,961	478,930	479,797	440,904	421,742	418,037
入院	287,882	286,528	290,482	286,230	280,830	274,857

② 手術件数(件)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	7,286	7,414	7,296	7,183	7,430	7,611

(5) 国際交流

① 国際医学交流

本学では、気候風土、生活環境が類似している北方圏諸国やアジア諸国との交流を中心に国際的な交流事業を進め、北海道をはじめ世界の人々の健康と福祉の発展を目指している。

昭和52年度以降、フィンランド、カナダ、中国、アメリカ及び韓国の各大学と交流協定を結び、研究者の派遣・受入交流を行っている。

また、平成11年度から、学生が国際的な視野を広げ、将来の活動の基礎を築くことをねらいとし、カナダアルバータ大学で語学研修を実施したほか、中国医科大学、韓国カトリック大学で臨床実習を行った。

・語学研修者数(人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
アルバータ大学	8	8	12	12	12	12

・臨床実習者数(人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
中国医科大学						
派遣	中止	2	2	2	2	2
受入	2	2	2	2	2	2
韓国カトリック大学						
派遣	2	2	2	2	2	2
受入	2	2	2	1	2	2

② 国際貢献

平成19年度から受け入れているJICA日系研修員事業については、引き続き研修員を受け入れることとしているが、JICA地域別研修「母子保健(フランス語)(A)」コースについては、平成27年度をもって国の委託事業の廃止に伴い、受け入れ終了となった。

・JICA日系研修員事業の研修員受入状況(人)

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
1	1	1	1	2	1

・JICA母子保健(フランス語)(A)人材育成研修の受入状況(人)

24年度	25年度	26年度	27年度
9	8	中止	8

6 決算、収支計画及び資金計画等

1 決算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

2 短期借入金の状況

※平成29年度の計画

①短期借入金の限度額
15億円

②想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故発生等により緊急に必要な
となる対策費として借り入れすること。

※平成29年度の実績
該当なし

3 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

※平成29年度の計画
該当なし

※平成29年度の実績
該当なし

4 剰余金の使途

※平成29年度の計画

全学的視点に立ち、教育・研究・診療の質の向上、社会貢献及び組織運
営の改善に充てる。

※平成29年度の実績
該当なし

5 施設及び設備に関する計画

※平成29年度の計画

(単位:百万円)

施設・設備の内容	予定額	財源
施設整備事業	1,194	施設整備補助金
医療機器整備費	879	長期借入金

※平成29年度の実績

(単位:百万円)

施設・設備の内容	実績額	財源
施設整備事業	1,094	施設整備補助金
医療機器整備費	879	長期借入金

6 人事に関する計画

※平成29年度の計画

第2の2「組織及び業務等に関する目標を達成するための措置」に記載のと
おり

※平成29年度の実績

第2の2「組織及び業務等に関する目標を達成するための措置」に記載のと
おり

7 積立金の使途

※平成29年度の計画

次の業務の財源に充てる

- ・大学(附属病院含む。)に係る施設設備整備事業
- ・その他、教育・研究・診療・社会貢献に係る業務及びその附帯業務

※平成29年度の実績

該当なし

別紙

平成29年度 決算

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	6,685	6,762	77	
施設整備費補助金	1,194	1,094	△ 100	
自己収入	25,740	25,774	34	
授業料及び入学検定料収入	821	808	△ 13	
附属病院収入	24,272	24,440	168	
雑収入	647	526	△ 121	
受託研究等収入及び寄附金収入等	839	2,753	1,914	
長期借入金収入	879	879	0	
目的積立金取崩	100	0	△ 100	
計	35,437	37,262	1,825	
支出				
業務費	32,021	31,659	△ 362	
教育研究経費	1,715	1,620	△ 95	
診療経費	13,771	13,912	141	
人件費	15,975	15,646	△ 329	
一般管理費	560	481	△ 79	
施設整備費	2,073	1,973	△ 100	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	816	1,082	266	
長期借入金償還金	527	525	△ 2	
計	35,437	35,239	△ 198	
収入-支出	0	2,023	2,023	

平成29年度 収支計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
経常費用	33,633	33,530	△ 103	
業務費	31,601	31,316	△ 285	
教育研究経費	1,969	1,823	△ 146	
診療経費	13,388	13,441	53	
受託研究費等	269	406	137	
役員人件費	89	89	0	
教員人件費	4,593	4,304	△ 289	
職員人件費	11,293	11,253	△ 40	
一般管理経費	560	507	△ 53	
財務費用	7	5	△ 2	
減価償却費	1,465	1,702	237	
経常収益	33,533	33,656	123	
運営費交付金収益	6,621	6,202	△ 419	
施設費収益	0	193	193	
授業料収益	727	717	△ 10	
入学金収益	81	77	△ 4	
検定料収益	13	15	2	
附属病院収益	24,272	24,440	168	
受託研究等収益	370	684	314	
寄附金収益	521	596	75	
雑益	605	443	△ 162	
資産見返運営費交付金等戻入	50	87	37	
資産見返寄附金戻入	78	72	△ 6	
資産見返補助金等戻入	168	98	△ 70	
資産見返物品受贈額戻入	27	32	5	
経常損益	△ 100	126	226	
臨時損失	0	10	10	
臨時利益	0	6	6	
純損益	△ 100	122	222	
目的積立金取崩額	100	0	△ 100	
総利益	0	122	122	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

平成29年度 資金計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
資金支出	35,437	41,014	5,577	
業務活動による支出	32,689	31,400	△ 1,289	
投資活動による支出	2,221	3,389	1,168	
財務活動による支出	527	1,937	1,410	
翌年度への繰越金	0	4,288	4,288	
資金収入	35,437	41,014	5,577	
業務活動による収入	33,364	32,854	△ 510	
運営費交付金による収入	6,685	6,202	△ 483	
授業料及び入学金検定料による収入	821	808	△ 13	
附属病院収入	24,272	24,060	△ 212	
受託収入	294	612	318	
寄附金収入	545	693	148	
その他収入	747	456	△ 291	
預り科学研究費補助金等増減	0	23	23	
投資活動による収入	1,194	2,455	1,261	
施設費による収入	1,194	581	△ 613	
その他収入	0	1,874	1,874	
財務活動による収入	879	1,659	780	
前年度よりの繰越金	0	4,046	4,046	

(注)金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。